

三到図書館 =ユース

- 📖 大学生生活と生涯の宝
- 📖 アメリカ大学図書館視察
- 📖 データベース紹介
- 📖 週に一度、図書館に来て自らと語ろう
- 📖 図書館読書運動プロジェクト



J. F. Oberlin University Library

大学生生活と生涯の宝 ～バッハのミサ曲口短調～

リベラルアーツ学群長 大 道 卓



学生時代に様々な文献、特に人間が今まで残してきた歴史的著作物に直接触れることは貴重な経験になる。高校時代までは結果や結論に重点をおいた知識が勉強の中心であったと思う。学生時代には、諸先輩たちが「なぜこのような結論を得るようになったのか」、「どのように努力をして結論に導いたのか」など、結論や結果に導くまでの努力や工夫そしてそのプロセスを、文献や著作物を通して探り出してほしい。どんなジャンルでもいい。それは「本物」を教えてくれる。本物は決して色あせないし、生涯を通しての宝になる。

バッハ作曲ミサ曲口短調の冒頭の「Kyrie eleison」は天国への扉を開けるとたとえられる。これが私のバッハとの出会いである。学生時代クラシック音楽に親しみを覚え、様々な音楽を楽しんでいたが、友人の「大学の混声合唱団の定期演奏会があるからこい」という一言で出かけていった演奏会の冒頭がこの「Kyrie eleison」であった。それ以降わずかなお小遣いの中から購入したLPやFM放送を通して多くの作品に接するとともに文献を読みあさり、バッハの残した壮大な世界に引き込まれた。器楽曲、オルガン、室内楽など様々なジャンルを聞いてきたが、やはりバッハが多く残した教会音楽、特に合唱曲の虜になってしまった。特に「マタイ受難曲」と「ヨハネ受難曲」そして「口短調ミサ」はいろいろな演奏を集め聞き比べをしていたが、自分でも歌ってみたいという思いが強くなってきた。そのような時に先ほどの大学混声合唱団が「マタイ受難曲」を演奏すると聞いて、いきなり合唱団に飛び込んだわけである。こうして私の合唱体験が始まった。

「ミサ曲口短調」は不思議な曲である。カンタ

ータを200曲以上残しているバッハはミサ曲については小ミサを含めても5曲しか残していない。これはルター派プロテスタント教会である聖トーマス教会のカントールであったバッハの職務として当然かもしれない。日々の礼拝に用いるカンタータを作曲し、カトリックのミサに準じた曲を作る必要がなかったのである。バッハ自身もキリエとグロリアのみを「ミサ曲」と表し、残りの部分は別の時期に作成し、これらを合わせたものである。しかも、バッハがこの曲全体を通して演奏したという記録は残っていない。

バッハは口短調ミサ曲をどのように考え、何を表現したかったのであろうか？最初のキリエとグロリアの完成（1733年）から死の直前（1750年）までこの曲に手を加えていたことが知られている。カトリックの長い伝統で完成されたミサ典礼文。この構成を用い、ルター派の深い神学的見識を持つバッハは自らの信仰を表す証としてこの口短調ミサ曲を作ったと考えることができる。いわばバッハの遺作であり、生涯を通して表現したかったものの集大成である。特にひとつひとつの歌詞の深い理解に基づいた旋律やテーマにすばらしいものがあるし、バッハの思いや熱意をそこに見いだすことができる。

大学での研究生活、社会人としての仕事生活、そしてまた大学での教鞭。私の人生は様々な経験と変化の連続であり、いろいろな体験で多くのものを学んできた。しかし、学生時代に学んだ天文学での探究方法、そして人類が残してきた「本物」の大切さとそれにふれる喜びは今でも私の宝である。皆さんもぜひ学生生活を通して諸先輩が残してきた人類の資産に触れてほしい。図書館はその宝であふれている。

アメリカ大学図書館視察

図書館事務長 石崎 栄子

私は4月に2か所の異動を経て、17年ぶりに図書館に戻ってきました。この『三到図書館ニュース』は1983年に創刊し、題字と巻頭言を創立者であり学長であった清水安三先生に書いていただいたことなど、編集に私が携わっていたことを思うと感慨深いものがあります。

この度、新図書館に向け、昨年11月13日から22日にかけて、国際教育センター教授のブレス・バートン先生とOberlin College, San Francisco State University (SFSU), University of Hawaii (UH) の図書館を見学してきました。

Oberlin College Library

Oberlin Collegeは、1833年に創立した当初から、入学資格に性別や肌の色の制限を設けなかった大学としても知られ、本学の創立者清水安三・郁子夫妻が学んだ大学でもあります。学生数は約3,000名で、オハイオ州きっての名門リベラルアーツカレッジです。

訪問した中央図書館は、1974年に建てられた5階建の図書館で、ゆったりした閲覧室があります。参考図書コーナーには、検索に必要なパソコンと大きな机のパブリック・ワークステーション・エリアがあります。蔵書数は約130万冊で、この他に、芸術、音楽、科学図書館があります。



パブリック ワークステーション エリア

J. Paul Leonard Library (SFSU)

大学は1899年に創立し、訪問したこの図書館は本学と同じ1970年の設立です。やはり現在は図書館のスペースがないことが悩みの種だそうで、2008年度には、新図書館が完成の予定です。見取り図等を見せて頂きました。学生数は約29,000名、蔵書数は約150万冊あり、1階には24時間開館しているエリアがあります。希望する学生は、キャンパスパソリスのエスコートサービスが受けられます。



新図書館の完成図の前でライブラリアンの方と(中央が筆者)

Hamilton Library (UH)

大学は1907年に創立、学生数は約50,000名で、図書館はマノア校に2館あります。訪問したハミルトン図書館の蔵書は、約340万冊ありますが、湿度が高いため、電動の集密書架はカビが生えるので使えないそうです。

この図書館では、2004年10月30日に起こった集中豪雨で、1世紀近くの年月をかけて収集し、保存してきた政府刊行物・地図・航空写真などが泥水に埋没してしまいました。職員が、泥水で汚れた資料を、一枚ずつ特殊な紙に挟んで水道水で洗うという、気の遠くなるような作業をしていました。地階の部屋には人の背丈を越える高さの泥水の跡が残っていました。図書館の電気も完全復旧に至らず、2割の電気は発電機の送電で賄っているそうです。被害総額は、日本円にして20億円以上とのことです。

この図書館のように、防災計画書や災害対応準備委員会があり、熟知した指導者がいても、予期せぬことが起こり、正確な判断は難しいそうです。本学も災害に向けた対策を真剣に考えなければなりません。



泥水で汚れた資料を水道水で洗っているところ

これらの図書館の共通点は、いずれの図書館にも“Mission Statement”があり、生涯にわたる学習者を育成することを使命として、情報リテラシー教育に力を入れていることです。また、どの図書館にも自由に使える、あるいは授業のためのコンピュータ・ルームがあり、ライブラリアン(図書館情報学と専門分野両方の学位も持った教育職の図書館員)が授業を行っています。

一方、非来館型の利用者サービスにも、大変力を入れていきます。本学でも学生・教職員は自宅から資料の予約・貸出延長・購入希望等ができますが、これらの大学では、ほとんど全ての電子資料についても自宅で利用することができます。

電子資料は高価で、大学の登録者全員の利用契約は限定されるのが現状です。本学でもPULC(公私立大学図書館コンソーシアム)に参加してコンソーシアム価格で契約するなど、電子資料購入に向けて努力しているところです。

アメリカの大学図書館に行き感じたことは、100余年という大学の歴史の重みでした。そして、いかに図書館が充実しているかということです。桜美林大学の歴史は40年ですが、それに合った図書館になっているであろうか、責任の重さを感じながら帰路についた出張でした。

データベース紹介

～データベースを利用して、情報探索のプロになろう！～

図書館では、さまざまなデータベースを契約しています。データベースでは新聞記事の検索・閲覧や雑誌の記事検索などができます。他にも、辞書事典のデータベースもあります。ここでは、代表的なデータベースを紹介します。



データベースは図書館HPの「データベース」から利用できます。利用範囲が学内限定のものは学内のPCや学内LANに接続しているPCからの利用になります。



1 新聞記事を読もう！

次のデータベースで、新聞記事の検索と記事の全文を読むことができます。

聞蔵 (朝日新聞) 週刊朝日、AERAを含む朝日新聞の記事検索が可能です。

日経テレコン21 (日本経済新聞) 日経四紙の記事検索の他、企業や人事検索、マーケット情報などを提供しています。

ProQuest (英字新聞) “Washington Post” “Guardian” “New York Times” “USA TODAY” “Wall Street Journal” の記事が読めます。



図書館 1Fに新聞コーナーがあります。朝日、日経、読売、毎日などの他、英字新聞や中国の新聞などを所蔵しています。



2 雑誌の論文記事を確認しよう！

雑誌の論文記事を検索するデータベースです。どのような記事がどの雑誌に掲載されているかを知ることができます。

MAGAZINEPLUS 学術雑誌の他、一般誌・総合誌・ビジネス誌などの記事情報を収録した国内最大の雑誌・論文情報データベースです。桜美林大学OPACへのリンク機能があり、雑誌の所蔵状況を確認できます。

GeNii[ジ-ニイ] CiNii[サイニイ] 国立情報学研究所のNii論文情報ナビゲータです。学協会で発行された学術雑誌と大学等で発行された研究紀要を検索し、検索された論文の引用文献情報(どのような論文を引用しているか、また、どのような論文から引用されているか)をたどったり、本文を参照したりすることができます。

ProQuest 人文社会系の雑誌を中心とした英語の論文記事の検索ができます。記事の全文や抄録が読めるものも多数あります。



本学図書館に、必要な論文記事の雑誌を所蔵していない場合は、文献複写依頼サービスを利用してコピーを取り寄せることができます。



3 時事用語事典で調べてみよう！

図書館にも各種辞書事典が所蔵されていますが、次のデータベースから利用することができます。

JapanKnowledge 『イミダス』、『現代用語の基礎知識』、『日本大百科全書』の他、英和辞典など各種辞書事典類の横断検索ができます。



朝日新聞データベースの聞蔵 では、『知恵蔵』を検索することができます。

新 入 生 のみなさんへ

Message

週に一度、図書館に来て自らと語ろう 図書館副館長 堀 潔

入学したばかりでこれからキャンパスライフをエンジョイしようとしている諸君にはたいへん申し訳ないが、大学生の4年間なんて、まさにあっという間に過ぎていく。大学生になった喜びもつかの間、今度は「卒業後、どのような会社に就職しようか?」「どんな人生を歩んでいこうか?」と思悩むことになる。

厄介なことに、この種の悩みには「正解」がない。しかし、時期が来れば何らかの答えを出さなければならない。しかも、勉強や試験と同じで、テキストに一夜漬けて勉強してテキストに書いた解答がよい解答である可能性は非常に低い。さらに、たいへん申し訳ないが、大学でフツーに授業に出ている、おそらく「自分のやりたいこと」や「なりたい仕事」は見つからない。大学では、そんなことは教えてくれないのだ。結局、自分の人生は自分で考えて自分で決めなければならないのだ。

だから私は諸君に、「自分と語る」時間を定期的に持とう、と提案したい。「何になりたいか?」「どんな人生を歩みたいか?」「どんな社会にしたいか?」など、考えてもすぐに答えの出ないことや考えてもしかたのないようなことを自分に問いかけ、考える時間を週に一度、持とう。

図書館に来ると、いろんな本がある。本を読めば、授業で教えてもらえない先生に教えてもらうこともできるし、この世にもういない「世紀の偉人」に出会うこともできる。週に一度、授業のない時間に図書館に来て、本を読みながら自らと語ろう。「人生を変える一冊」にも、きっと出会えることだろう。

2007 開館カレンダー

4 April						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5 May						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6 June						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

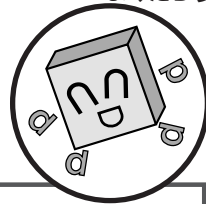
本 館：月～土 8:30～21:00
情報メディア室：月～金 9:00～17:45
土 9:00～14:00
赤字 = 休館日

図書館は、図書・雑誌・新聞などを所蔵する本館とビデオ・DVDなどの視聴覚資料を所蔵する情報メディア室に分かれています。図書館の蔵書総数は約45万冊あり、桜美林学生のみなさんの学習や研究を支えています。また、ゆっくり学習できるスペースやパソコンなど情報環境の設備も整えています。

ぜひ、図書館をご活用ください。みなさまのご利用をお待ちしております。

案内図





図書館読書運動プロジェクト紹介



図書館読書運動プロジェクトって何??



毎年テーマを決めて、学内から募集した本を図書館に置いています。みんなでその本を読み、その本やテーマに関する様々なイベントをおこない、本を通じた“「対話のコミュニティの輪」”を大学全体に広げていこう、という壮大な(?)プロジェクトです。

昨年のテーマは「戦争と平和 - いまパシフィスト精神を考える」でした。

桜美林学園の創立者・清水安三先生は、建学の精神で「パシフィスト」(平和主義者)精神の必要性を提唱しています。第二次大戦の最中、「敵国」である中国の貧しい子女のための教育に取り組んだ清水安三。世界各地で戦争が続くいま、清水安三の精神をもう一度問い直してみよう!というテーマで活動をおこないました。



昨年度はこんな活動をおこないました!

戦争文学読書会

- 第1回 6月30日 ドルトン・トランボ「ジョニーは戦場へ行った」
- 第2回 7月11日 井伏鱒二「黒い雨」



読書会では、学生と教職員が同じ本を読んで議論や意見を戦わせました。同じ本を読んでもひとそれぞれでいろいろな感じ方やとらえ方があります。一冊の本を通してみんなの意見や感想を話しあってみませんか? 読書会がたくさんの方たちを作る良い機会になれば、と思います。自分のオススメ本を紹介し、面白かった本の情報交換をしませんか? 図書館スタッフからも本の紹介などのお手伝いをします。みんなで読んでも面白い。みんなで感想を話し合うのも楽しい!

Lib Cinema

- 第1回 5月22日 『911ボーイングを探せ：航空機は証言する』
- 第2回 6月12日 『911ボーイングを探せ：航空機は証言する(英語版)』
- 第3回 7月 4日 『ジョニーは戦場へ行った』(1971米)
- 第4回 11月16日 『マッシュルーム・クラブ』(2005アカデミー賞ノミネート作品)



2回目のLib Cinemaでは上映会のあと、留学生といっしょに平和に関する討論会をおこないました。日本語、英語、中国語が飛び交うインターナショナルな雰囲気の中、国際社会と平和についてみんなで話し合いました。4回目のLib Cinemaでは、原子爆弾の後遺症に今もお苦しみ続けている広島市の被爆者たちを記録した映画、『マッシュルーム・クラブ』(スティーブン・オカザキ監督)を上映しました。続けて志田健一さん(経済学科)製作『チェルノブイリ原発事故の記録』の上映、留学生・于欣さん(大学院)による報告「アジアからみたヒロシマ」をおこないました。後半は留学生、教員を交えた参加者によるディスカッションをおこないました。広島市の原爆投下という悲劇ひとつをとって見ても、同じ若者でも日本人と留学生ではとらえ方や感じ方が微妙に違っていたりして、討論が白熱するワンシーンもありました。

図書館読書運動プロジェクト記念講演会

ピーター・フランクル講演会+大道芸

「世界80カ国の面白体験談 ~ 私にとってのパシフィスト精神とは」

12月14日 外国語の達人、大道芸人のピーター・フランクルさんをお招きして、華麗な大道芸の実演に続いて、楽しい講演を聞かせていただきました。

学生スタッフが中心となって企画・運営・司会進行のほとんどをおこないました。

学生、教職員はもとより、町田市・相模原市など近隣からも多くのお客様にご来場いただき、会場の太平館A200レクチャーホールで立ち見も出るほど盛況のうちに終わることができました。



図書館読書マラソン・戦争文学ベスト30

教職員から公募した「戦争文学ベスト30」を図書館に用意して、学生のみなさんに読んでもらい、感じたこと、考えたことをコメントカードで発表してもらいました。



● 昨年度はこんな本を読みました ●

「夜と霧」「ジョニーは戦場へ行った」「誰がために鐘は鳴る」
「ゾフィー21歳 ヒトラーに抗した白いバラ」「西部戦線異状なし」
「黒い雨」「少年H」「アメリカひじき・火垂るの墓」「ビルマの豎琴」
「ひめゆりの塔をめぐる人々」「ちょっとピンボケ」「ベトナムロード」
「本当の戦争の話をしよう」「イラクの小さな橋を渡って」「アフガニスタンの診療所から」「スローターハウス5」「9をまく」・・・

図書館読書運動プロジェクト企画のイベントも参加して下さい!

私たちプロジェクトでは、いろいろなイベントを企画しています。

【図書館読書マラソン】

本を読んでコメントカードを提出してください。
あなたのコメントをみんなに読んでもらおう!

【読書会ネットワーク】

有志で読書会を開催します。
読書会の輪をひろげ、本を通じて仲間を作ろう!

【Lib Cinema】

読書運動のテーマに基づいた映画を上映します。

【Lib Cafe】

本好き、読書好きな仲間といっしょにオススメ本の情報交換をしましょう。

今年の図書館読書マラソン新企画にご期待ください。みなさんの参加を待っています!

学生プロジェクトメンバー大募集!

一緒に図書館読書運動プロジェクトの企画・運営をやりませんか? 詳しくは、桜美林大学図書館まで!!!

お問い合わせはこちらまで。メールアドレス: dokusho1@obirin.ac.jp